

平成23年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ムシガレイ

学名 *Eopsetta grigorjewi*

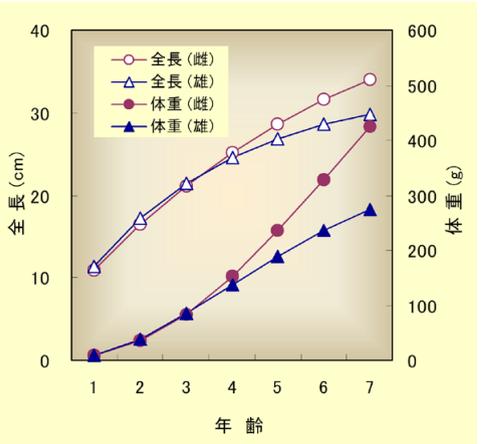
系群名 日本海系群

担当水研 日本海区水産研究所



生物学的特性

寿命: 7歳
 成熟開始年齢: 2歳(40%)、3歳(100%)
 産卵期・産卵場: 冬～春季(1～3月)、対馬周辺海域
 索餌期・索餌場: 夏～秋季、日本海西部
 食性: 全長約12cmまでは小型甲殻類、12cm以上ではエビ・カニ類やイカ類、全長約18cmから魚類
 捕食者: 不明

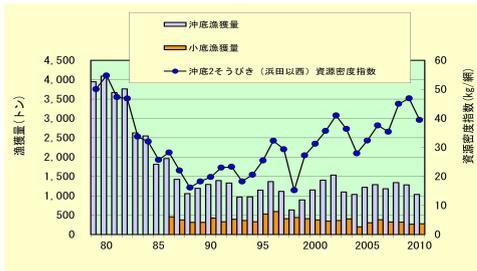


漁業の特徴

日本海南西部では、ムシガレイは底びき網、刺し網、延縄等で漁獲されるが、その殆どは浜田以西の2そうびき沖合底びき網(沖底)と小型底びき網(小底)によるものである。沖底のムシガレイ漁場は、対馬南西域から隠岐周辺に及ぶ。

漁獲の動向

1980年には沖底だけで4,000トンあった漁獲量は、1980年代前半に減少し現在まで低水準で推移している。近年の沖底の漁獲量は800～1,300トン、小底の漁獲量は300トン前後で、2010年の総漁獲量は1,313トンであった。

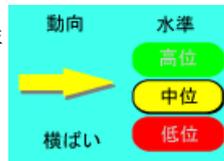


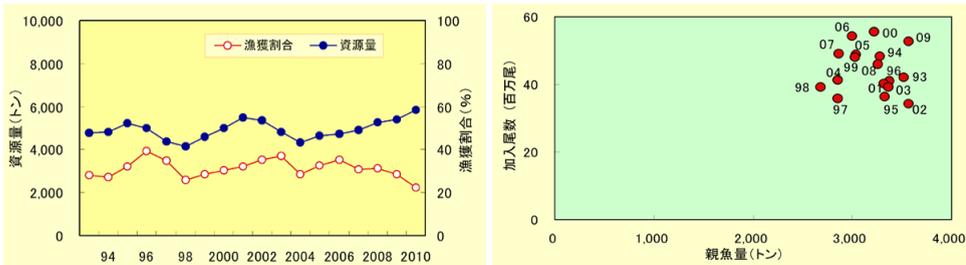
資源評価法

1966年以降、長期的な資料が整備されている沖底の漁獲成績報告書に基づく資料から、資源密度指数、資源量指数及び有効漁獲努力量等の指標値を算出した。これに加えて1993年以降については年齢別漁獲尾数を求め、コホート解析により資源量やF値などを推定した。

資源状態

漁獲量は1990年代以降近年も低水準であるが、沖底の資源量指数および資源密度指数は2000年代以降増加または横ばい傾向にあり、2010年の資源量指数は中水準にある。また、最近5年間の両指数は横ばい傾向にあることから、資源動向は横ばいと判断した。有効漁獲努力量及びコホート解析によるF値は低下傾向を示していることから、近年の漁獲圧は比較的低い水準にあると推定される。親魚量は増加傾向にあり、再生産成功率は最近2年やや低下したが、比較的高い水準にある。



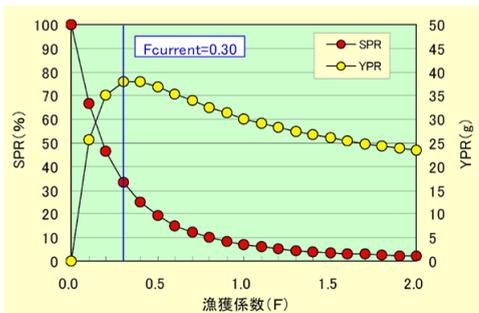


管理方策

資源量指数や資源密度指数は2000年以降、横ばいもしくは増加傾向を示している。コホート解析による資源量は長期的には安定しており、近年は緩やかに増加している。漁獲係数F、漁獲割合及び有効努力量は比較的低い水準にあり、この漁獲圧のもとで、最近5ヶ年平均の再生産成功率が続くと仮定した場合資源の増加が期待されることから、現状の漁獲圧による漁獲が望ましい。

	2012年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABClimit	18百トン	Fcurrent	0.30	23%
ABCtarget	15百トン	0.8Fcurrent	0.24	19%

- 漁獲割合はABC/資源量
- Fcurrentは2010年のF
- F値は各年齢の単純平均



資源評価のまとめ

- 近年の資源量及び親魚量は横ばい～増加傾向にある
- 漁獲圧は近年減少傾向が見られる
- 再生産成功率は比較的高い水準にある

管理方策のまとめ

- 現状の漁獲圧および最近年の再生産成功率の下であれば、資源量・漁獲量ともに増加が期待できる
- 1、2歳魚の漁獲割合が60～80%と高いため、若齢魚の保護等について検討する必要がある

執筆者: 木下貴裕・藤原邦浩

資源評価は毎年更新されます。